

NPO法人霧島シニアネット 絆(霧島市)

発表者：津之地 良 氏

皆さん、こんにちは。ご苦労様です。

私は、霧島シニアネット 絆の理事長の津之地と申します。老人クラブと民生委員の会長も兼ねて活動しているわけですが、今日は、特に私たちが皆さんに紹介するまでもなく、かねがね何を考えて活動しているかというようなことを中心に、身近な問題の話をしてみたいと思います。

1 ページにございますように「はじめに」というところ、ちょっとここだけ読んでみます。

少子高齢社会の中で高齢者の社会参加と生きがいづくりや介護予防と健康維持の問題、また認知症などへの対応など、高齢者を取り巻く環境については広範囲にわたって大きな問題があります。このような中で、元気高齢者が社会活動に積極的に参加していくことは地域活性化への貢献とともに、高齢者の皆が住み慣れた地域で尊厳を持って自立した生活を営むための支援につながると考えております。

そのためには、それぞれの地域に根差した種々の団体や住民、行政等が一体となった共生協働の取り組みが重要です。ここが、私は一番大事だと思います。このように、地域をおこしたり、高齢者の面倒を見たりするのは、特定の人が、特定の団体が幾ら頑張ってみてもそんなに効果が上がるものではないと私は思っています。みんながその気になって、みんなができることを一緒にやろうと考えています。

ですので、私たちのこの団体は、そういう皆さんの活動の中に入って、つなぐ役目を果たしていきたいと考えています。つまり、全ての高齢者が住み慣れた地域社会の中で良好な人間関係のもと、可能な限り自立した暮らしを続けることができる社会システムが必要です。私どもはそうした社会システム構築を目指した活動に取り組んでおります。

それでは、私たちのシニアネットの概要をちょっと説明したいと思います。団体名はNPO法人霧島シニアネット 絆です。活動の開始、平成15年から民生委員や老人クラブの会員の方々と一緒になって、見守り活動や地域おこしに取り組んでいます。私は、民生委員の方に、65歳ぐらいになったらみんな老人クラブに加入してくれと、これが民生委員活動の大本だと断言しています。ほとんどが入ってきてくれています。ただ、さっき申しましたよう

に、幾ら民生委員だけが、行政だけが頑張ってみても、みんなでやらなければいけないんです。みんなでやる、これがもう基本だと思っております。

活動の拡大・充実、思いを共有する活動仲間、人材の確保、活動資金の課題等もあり、平成23年4月から法人に移行しました。活動が盛んになりますと、「おまえたちがやることは老人クラブがやる活動なのか、ちょっと度を超しているんじゃないか。」というような問題もあります。なるほどそうだと思います。高齢者といっても、元気な人と、足腰が悪くて温泉とお茶飲みが仕事と、これも老人クラブ活動の大きな仕事の1つです。そういう2つの極に分かれているわけです。まだ働ける、やれる人を中心に活動をする。決して弱い人をないがしろにするということではありません。そういうことでNPO法人を立ち上げました。

もう1つの理由は、老人クラブはお金を持っていません。活動するにはお金なんですよ。やはり活動資金を獲得するためには、NPO法人の方がいろいろな方法で活動しやすいんじゃないかというようなことで立ち上げました。

何しろ高齢者だけのNPO法人です。活動をしていき、法人になりますと事務的な操作も非常に込み入ってきます。そうなれば、若手の人にも入ってもらわなければなりません。だから、今、若手の人も入ってもらって徐々に広げていっています。

活動の目的、高齢者・障害者がお互いに支え合い、まちづくり、生きがづくり、生活支援、子どもの安全、居場所づくり、公益の増進に寄与し、地域活性化に取り組む。お互いに支え合う社会づくり。3分の1が高齢者の時代です。また高齢者の3分の1は介護支援を受けています。支援を受けている中で、3分の1は認知症です。こういう時代がまだ今から10年、20年続いていきます。そういうときにどのような対応を皆さんはされますか。だから、高齢者が自分たちでできることは自分たちでやろうと、こういう気持ちを持たなければ地域の活性化はできないんです。だから、私はよく、「これから先は高齢者の時代だ。」、「俺たちは年を取ったで、もうよかか。」ということではなくて、「自分たちでやろう。」と。こういう気構えを持たなければ、活動はやっていけないんじゃないかと思っています。

次に活動目的。高齢者・障害者がお互いに支え合うまちづくり、生きがづくり、生活支援、子どもの安全、居場所づくり、公益の増進に寄与し、地域活性化に取り組む。このようなことで頑張っています。今年の実績が2つ書いてありますが、一番上の方は、今日のこの受賞。もう1つは、今年度の県優良防犯団体としての受賞を書きました。これは今年の実績ですけれども、防犯団体も今、霧島に大体80の防犯団体があります。その中で、私たちの団体は老人クラブとして発足させました。一番初めに発足をして、もう十何年経っています

が、こういうことで今でもまだ頑張ってもらっています。

次に主な活動内容。写真の順序でいきます。「生きがいロード」の取り組みと書いてありますが、この写真を見てください。右側の方は作業の様子。この地域は桜島と霧島のちょうど中間で、海岸線は先ごろ国立公園に指定されました。非常に見晴らしのいいところです。ややもすると、霧島の観光というのは山の霧島と温泉だけと言われるかもしれませんが、私たちはやはり、もうちょっと海を知ってもらわなければいけないということで、ここは大体、港を挟んで3キロあります。ここを自分たちで開拓し、ボランティアを募ったり、業者の人の加勢をもらったり、県の振興局の人たちの加勢をもらったりしてやっています。これを「生きがいロード」と名づけました。自分たちでつくった道路だと高齢者が思うことと、また一般の人が散歩コースに使ってもらえば生きがいにつながる。それで春は菜種、秋はコスモスというようなことで、今、作業をしています。下の方は作業の様子です。小学校の子どもたちが、コスモスの種をまくところですよ。



次に移ります。それとは別に、公園の花壇づくり。ここもシルバーが管理している公園ですけれども、花園がありませんでしたので、私たちが年間大体2,000本ぐらいの花を植えて活動をしています。下はその様子です。

次に移ります。次は、地域の伝統行事。これは、隼人の鹿児島神宮の行事ですけれども、春の鈴掛馬、秋の私たちの「浜下り」の行事があります。大体、総予算で100万円かかります。1年間準備をして、その2つの実行委員、本部の実行委員と私たちは浜の海岸の方の実行委員をしているわけですが、大体200



万円ぐらいの予算で、寄附をもらったり、市の助成をいただいたり、例えば出演者や行列に参加した人たちの弁当を作ったり、弁当だけでも老人クラブで400食作ります。これも全部、

高齢者だけの仕事です。下の方は、かぶとを作ったりしている様子ですね。

それから次の6 ページに移ります。上の方はマステゲームがあります。これは、隼人の老人クラブの女性部がマステゲームをします。これも3 カ月ぐらい前から、ずっと練習を続けて発表してもらっています。下は、いろんな伝統芸能、右の方は浜之市の魚とり踊りとかいろいろあります。下の方は、バザーの様子です。



次に地域安全パトロール。写真の右側の方は、年2回、全体で地域を安全パトロール、これは市長も議長も出てきてもらって、みんなで取り組んでいます。どのような活動かという、このパトロール隊員は、老人クラブは全員会員です。しかし、定期的に出てきてもらう人は大体30人ぐらいです。それで確認をしながら活動しています。

下の方は、生きがづくり事業。あるおばあさんのところに呼ばれまして、おばあさんから「是非来てくれんか。寿司ができたから寿司食いに来やはんか。」と呼ばれましたので行ってみると、集落ですけれども、限界集落でほとんど人は来ません。私たちが行けば非常に喜んで、こういうようなもてなしも、してもらっています。

そういうことで、一番最後、生きがづくり。老人クラブが中心になっていますが、これは、生きがづくりを進める市の予算がございまして、そのサロン活動の中心は、老人クラブの女性部が担当をしているというようなことです。

いろいろなことをやっているわけで、私たちは決して、100%できたからいいと考えてはいません。できないときはやり直せばいい、まずやってみよう、後ろを向かないで前に進もうと、これが今後の私たちの活動のもとじゃないかと思っています。

非常に急いで話しました。失礼します。ありがとうございました。